

# 子どもの健康・安全と教育環境の充実



- 子どもの健康・安全を守るための施策の充実を!
- 学校施設の老朽化対策の実施と設備の充実を!
- 少人数学級の計画的な推進を!



- 子どもの健康権確立のため、保健教育と保健管理を推進するための条件整備を行うこと。
- 学校施設の耐震化率100%を早期に達成すること。非常災害時における避難施設として整備すること。また地域と連携した防災・減災体制等の充実を行うこと。
- 学校施設の老朽化に伴う改修事業を拡充すること。
- 設置者は学校・通学路の安全確保を行うこと。
- 小学校から高校までの30人以下学級の実現をはかること。当面、35人以下学級とすること。

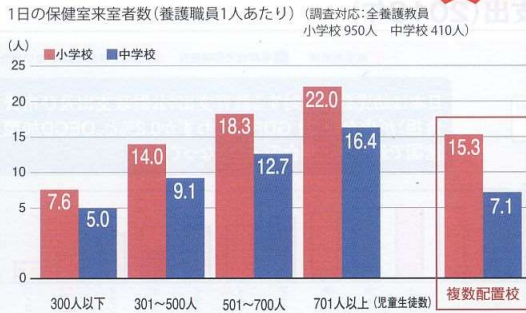


## ゆきとどいた保健活動を行うために

### 養護教員の複数配置拡大と既配置校の継続保障を!



**複数配置基準の引き下げを!**



●複数配置基準  
小学校851人以上 中学校801人以上

アレルギーや心の問題など健康問題が多様化し、一人に対応するには限界がある。

健康診断にかかわる調査や事後措置、報告が増えた。ゆっくり子どもとむき合いたい。

複数配置基準をわざわざ下回る単数配置校では、必要最低限の対応しかできないという声が上がっています。話をじっくり聞くなど、一人ひとりの子どもに合わせたきめ細やかな対応をするためにも、複数配置基準の引き下げが必要ですよ。



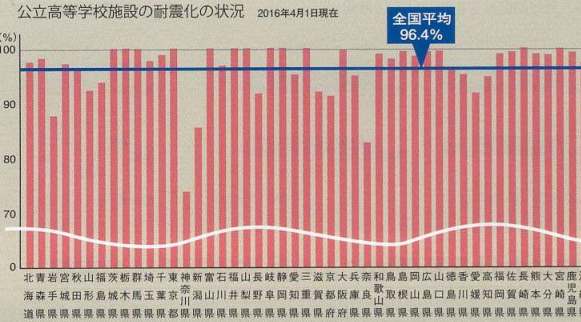
日教組・単組実態調査(2016年)より

## 公立高等学校施設の耐震化、早期に100%へ!

### 第二次診断等の実施率も100%に!

第2次診断等が100%でない自治体は17あります。早期に完全実施を求めましょう。

※1次診断:柱や壁の断面積から耐震性の確認。  
2次診断:さらに鉄筋の影響も考慮して耐震性を求める。2次診断は1次診断よりも耐震診断の結果の信頼性が高い。



## 天井材、照明器具、内外装材、家具等の耐震対策を!

### 非構造部材の耐震化をすすめよう!

東日本大震災、熊本地震等では、天井材などの非構造部材の落下による大きな被害が発生しました。学校施設の耐震化は、すすんでいるものの、非構造部材の耐震化はすすんでいません。(小・中学校98.1%、高等学校96.4%)

